

第5次中期5カ年経営実行計画 **V-ACTION for sustainability**

KIZUNA指標の進捗

荒川化学グループでは、2021年度からKIZUNA指標を導入し、サステナビリティに対する各種取り組みの進捗状況のモニタリング・評価をサステナビリティ委員会でおこなっています。

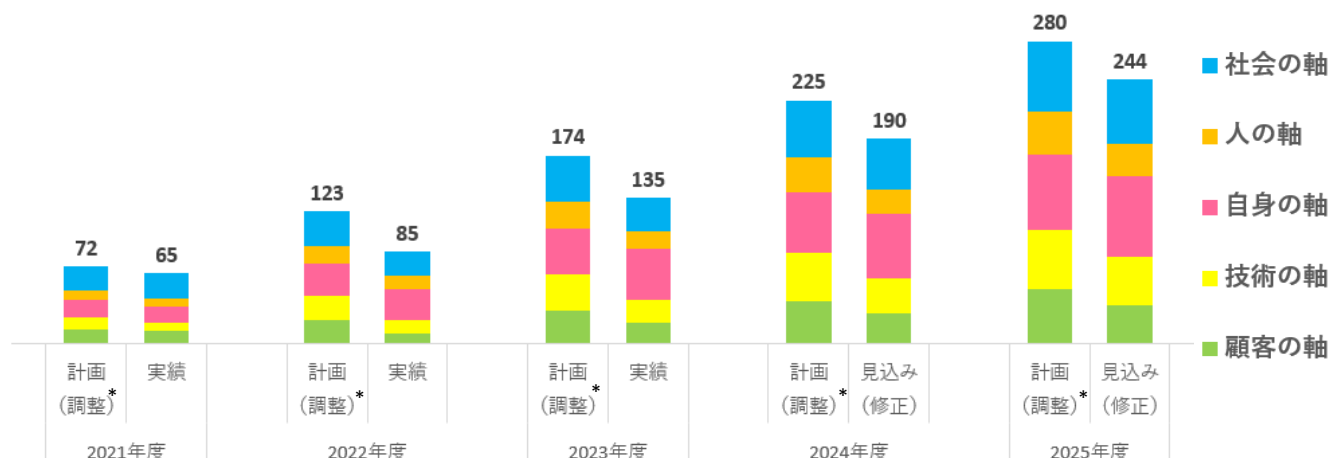
KIZUNA指標は、当社グループにとって優先的な重要課題から設定した「ありたい姿」を実現するための定量化した指標であり、5つのKIZUNAの軸に区分し、各指標に対する配分の重みや進捗によって独自のポイント換算によりモニタリングして管理しています。第5次中計のKIZUNA指標のうちサステナビリティ経営におけるリスクと機会に対する重要な指標としてCO₂排出量削減およびサステナビリティ製品の連結売上高指数向上の2つの指標をサステナビリティ・リンク・ボンド（SLB）にも紐づけており、両指標の達成に向けて取り組みを強化しています。なお、第5次中計の見直しにともない、関連する各指標の2025年目標値の修正および一部の指標の変更などをおこないました。KIZUNAポイントの到達地点も280ポイントから240ポイント以上に見直しました。

また、社員個々の貢献計画書にもKIZUNA指標を組み込んでおり、一人ひとりが意識を高め、自分ごと化としてACTIONすることで個人の成長と会社の成長が連動し、**Well-being**となる仕組みにしております。

2023年度の実績は、KIZUNA指標の目標174ポイントに対して達成率78%の135ポイントとなりました。

5つのKIZUNA	各指標に関する進捗（ポイントの乖離）
【社会の軸】 まもる	CO ₂ 排出量削減率は2015年度比53.0%となり、カーボンニュートラル都市ガスや再エネ電気の導入の拡大など2030年度目標を上回るペースで進捗し、保安力評価は向上したものの、休業災害が発生し、計画から乖離がみられました。
【人の軸】 関わりあう	海外駐在員の邦人指数は計画以上の水準で進捗していますが、荒川ヨーロッパ社での製造終了や景気低迷継続などもあり、海外売上高伸長率やバイオマス度換算販売量指数は計画から乖離しました。
【自身の軸】 主役になる	付加価値労働生産性は業績の低迷に連動しておりますが、前年比からは改善し、男性育児休業取得率も66.7%と高い水準を維持し、ミッションをSHIFTした数も計画以上に進捗しました。新たな社会貢献活動による加算もあり、順調に進捗しました。
【技術の軸】 技術の伝承と革新	サステナビリティ製品の連結売上高指数は2019年度比11%アップ、NEXT事業の創出としてベンチャーファンドへの出資（SoPros株式会社：微細藻類事業）が「そだてる」ミッションへ移行や一部製品の製造拠点の統廃合などもありましたが、他の「みつける」からのミッション移行の遅れなどもあり、計画から乖離しました。
【顧客の軸】 お客様と共に歩む	品質クレーム件数の削減率は改善し、持続可能な調達率も順調に推移しているものの、業績の低迷に加え、調達先監査件数が伸び悩み、計画から乖離しました。

KIZUNAポイントの推移



*サステナビリティ・リンク・ボンドの発行に連動させた指標やプライム市場への移行にともなう追加指標もあり、KIZUNA指標のポイント配分を調整した

KIZUNA指標実績一覧

5つのKIZUNA	優先的な重要課題	K I Z U N A 指標	2023年度実績		目標*7	ポイント	ポイント合計	
			内容	実績/計画	2025年度 (一部目標修正)			
【社会の軸】 まもる	安全文化の醸成	災害・事故ゼロ継続 (死亡・休業災害等) および 第三者機関による保安力評価、 安全レベルの継続的向上	休業災害2件 保安力：業界平均以上	31/43	災害・事故ゼロ継続 (死亡・休業災害等) 安全レベルの継続的向上 (評価4) *10	25	65	
	環境保全の強化	C O ₂ 排出量の削減	2015年度比 53.0%削減		2015年度比50%削減 (2015年度比30%削減)	20		
	ガバナンスの強化	マツタロウの森の植林活動 および C O ₂ 吸収量評価実施	植林実施、 吸収量8トン/年以上		運用	2026年度までに 約1万本の植林を実施 C O ₂ 吸収量10トン/年以上*9 持続可能な経営および企業価値 向上に向けた取り組み実施 (KIZUNA指標の達成)		5
		サステナビリティ委員会の 設置と運用	0件			0件継続		10
【人の軸】 関わりあう	事業のグローバル化 推進	海外駐在員の邦人指数*1	25%ダウン	16/24	2019年度比 15%ダウン	10	40	
		海外売上高伸長率	13%アップ		2019年度比 40%アップ	15		
		バイオマス度換算販売量指数*2	31%ダウン		2019年度比 7%アップ	15		
【自身の軸】 主役になる	ダイバーシティ& インクルージョン推進 働きがい改革	付加価値労働生産性*3	5.9%アップ	47/43	2019年度比 15%アップ	15	70	
		従業員満足度調査 (働きがいアンケート)	イキイキタイプ 50.3%		イキイキタイプ 50%以上	10		
		高ストレス者比率*8 (製造業平均比)	8.5% (57%)		製造業平均比 50%以下	10		
		社会貢献活動の実施*4	実施		地域清掃や献血などの継続と 新たな貢献活動の実施	5		
		男性育児休業取得率	66.7%		男性育休取得率 50%以上	10		
		女性管理職人数	6名増/3年		2021~2025年で 7名増	10		
		ミッションをSHIFTした数	11件/3年		8件以上/5年	10		
		働きがい改革						
【技術の軸】 技術の伝承と革新	N E X T 事業の創出	「そだてる」ミッション 移行テーマ件数	1件/3年	21/33	5件/5年	20	55	
	マーケティングカ・ 研究開発力の強化	サステナビリティ製品の 連結売上高指数*5	11%アップ		2019年度比30%以上アップ (2019年度比25%以上アップ)	20		
	生産体制再構築	モノ、ヒト、機器など 各種施策の実施	一部製品の 製造拠点の統廃合		品種統合、O E M、I o Tの 導入など各種施策の実施	15		
【顧客の軸】 お客様と共に歩む	健全な財務基盤	営業利益率	△3.6%	20/31	3.9%以上	10	50	
		ROE	△1.9%		3.6%以上	10		
	持続可能な調達と供給	持続可能な調達率 (金額ベース) *6	68.8%		70%	10		
		調達先監査件数	26件		50件	10		
品質マネジメントの強化	品質クレーム件数削減率	22%削減	2019年度比 50%削減	10				

*1 2019年度の海外関係会社あたりの平均邦人人数を100としたときの指数

*2 粘接着・バイオマス事業の主要製品のバイオマス度×販売量を当社基準に基づき指数化

*3 当社基準の付加価値額を設定して算出、目標値は策定時点での見なしの労働時間、従業員人数を除いて算出

*4 新たな取り組みを実施した年度は5ポイント加算する

*5 従来の環境配慮型製品の売上高の対象範囲・基準を見直し、サステナビリティに貢献している製品として当社内で認定した製品の連結売上高で、2019年度を100として算出

*6 非ロジック系原料(石油系原料)を対象とし原料背景を踏まえた当社基準で算出

*7 目標値は見直す可能性がある。

*8 旧指標である「過去3年のメンタルヘルスによる休業者の復職率」については、当社として対応できる環境整備は進められたため新たな指標に変更し、これまでの獲得ポイントは引継ぎ。製造業平均比についてはストレスチェックの委託先における該当年度の製造業平均値を100として算出。

*9 2023年度分より認定の対象が前年度に施業した範囲に改訂されたため、過年度分は算定式に基づき推定吸収量を加算してカウント

*10 評価4は一部の連続プラントの目標であり、大多数を占めるバッチプラントでは評価3.8を目標としている。

青枠は2021年12月23日に追加した指標、赤枠の()内の目標値はサステナビリティ・リンク・ボンドの取り組み目標(SPTs: サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット)を示す。